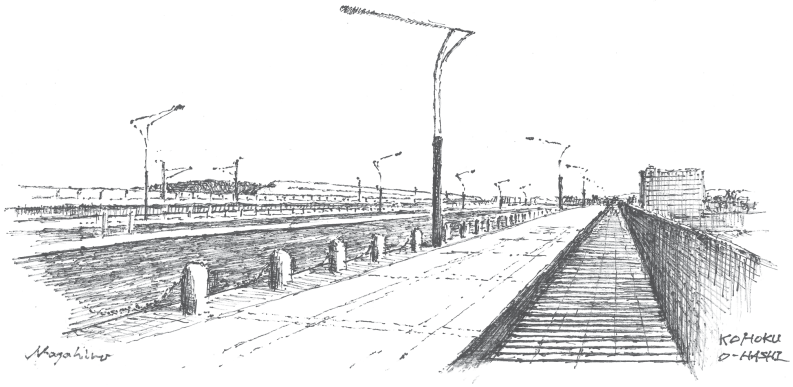
標点

# 保護者として思うこと

岡山県教育委員会委員
田野美佐



明けましておめでとうございます。

新年を家族、友人と迎えられたことと思います。昔のお正月は、子どもたちが凧揚げ、こま回し、かるた等をして、和気あいあいと過ごしていましたが、近年はそういう風景をあまり目にすることがなくなりました。公園では、ボール運動、花火などをしてはいけないなどと制限されることが多くなり、地域によっては、夏休みのラジオ体操も近所迷惑ということでやりにくくなってきている所もあります。しかし、本来子どもは、年齢を問わず外でおおいに遊び、その遊びの中から自分たちでルールを作り、喧嘩をしても、話し合い、解決し、仲直りをしてまた楽しく遊んでいました。特に幼少期は、人格形成にとってとても大事な時期であり、遊びを通して多くのことを学ぶ時期です。それと同時に親との関わり方もとても大事な時期だと言えます。

私も三人の子どもを育てる親として、日々の子育てはとても大変だと感じています。自分の思い通りにならないことや、我が子に対して腹が立つこともあり、日々葛藤の中、これでよいのかと試行錯誤しています。しかし、これらの葛藤を通して親子で段々ときずなが深まり、子どもも親に愛されているという安心感から、色々なことにチャレンジしていく勇気が湧いてくるのではないかと思っています。

子どもたちは、集団生活の中で園児、児童、生徒となり大人へと成長していきます。将来的には、グローバル化、ＡＩの本格導入を見据え、小学校の英語、プログラミング教育、小中学校の道徳の教科化など、教育課程も変わっていきます。学校や教師が対応していくことは当然ですが、教育を支える根本はやはり家庭での生活習慣の確立、親子のきずなだと思います。子育ての一番大切な時期に、親は子どもと向き合い躾をしていかなくてはいけません。親子のコミュニケーション方法として言葉のキャッチボールを多くすることもその一つだと思います。安易にスマホを与えたり、ビデオばかりを見せている話も聞きますが、本当に大事な時期に親は楽をしてはいけないと思います。

最近の学校現場では、家庭の問題を学校に任せていることが多々あるように思います。本来の教師の役割、家庭の役割をきっちり把握し、親が子どもによって「親」になれるよう、一人一人の保護者が、自覚を持つことが必要です。親子で悩みを共有しながら、子どもが将来の夢に向かって成長する姿を見守り応援していけることを切に願います。